

サハリン樺太史研究会
2012年度活動報告書

2016年3月31日
サハリン樺太史研究会

—2012 年度活動報告書—

目次

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物（付:参考資料 非会員による研究成果刊行物）

研究プロジェクト（付:参考資料 非会員による研究プロジェクト）

サハリン樺太史研究会会則・役員

報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。2012 年 1 月までに 2010 年度までの報告書刊行を終えたものの、それ以降は諸般の事情により作成が滞っていた。ここに 2011 年度から 2014 年度までの 4 年度分の活動報告書をまとめて刊行することとした。

2011 年度分以降では、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については本報告書編集時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、当時は未会員であった場合もあることはご了承いただきたい。

2016 年 3 月 31 日

中山大将

（サハリン樺太史研究会公式HP運営担当者）

—活動概要—

外部からの報告者・評者の招来

本年度の例会では報告者・評者に外部の研究者を多く招いた。昨年度はサハリン樺太史研究におけるテーマの多様化が表現されたが、今年度は異なる分野の研究者との交流の場となった。たとえば、今西一編『北東アジアのコリアン・ディアスポラ：サハリン・樺太を中心に』の書評会では、辛辣で批判的なコメントも相次いだ。こうした厳しい批判と研鑽は、サハリン樺太史研究の水準が向上する糧となるはずである。

三木理史『移住型植民地樺太の形成』出版

近年の樺太史研究の牽引者のひとりであった三木理史氏が著書『移住型植民地樺太の形成』を出版した。氏はすでに2006年に『国境の植民地・樺太』を出版しており、この書も樺太史研究者による概説書として意義深いものであったが、本書は研究者の手による戦後初めての学術的な樺太の通史としての意義を持っている。「通史がない」と言われて久しかった樺太史研究も当初の出版により、また新たな段階に入ったと言えよう。

朝日祥之『サハリンに残された日本語樺太方言』、玄武岩『コリアン・ネットワーク』出版

本年度は、上記『移住型植民地樺太』だけではなく、朝日祥之『サハリンに残された日本語樺太方言』、玄武岩『コリアン・ネットワーク』も出版された。両氏はそれぞれ言語学やメディア学の専門家であるが、サハリン樺太史研究会の新たな会員でもあり、サハリン樺太史に関わる様々な研究者が交流する場として本会が機能していることも示している。

舟山廣治編『樺太庁博物館の歴史』出版

本会会員の鈴木仁氏や出村文理氏らも執筆者に加わった『樺太庁博物館の歴史』が北海道北方博物館交流協会から刊行された。北海道郷土史研究の延長としての樺太史研究の一大成果である。

松村正直氏『短歌往来』に樺太文学記事連載

『短歌往来』に松村正直氏が樺太文学にまつわる連載を開始した。連載は、2013年1月号から2014年12月号まで続いた(なお、連載開始時には松村氏は非会員)。

日本学術振興会特別研究員に2名が採用

日本学術振興会特別研究員に加藤絢子氏と中山大將が採用され、それぞれ九州大学と北海道大学で新しい研究生活を始めた。サハリン樺太史を研究主題に掲げての採用は本会始まって以来のことであり、サハリン樺太史研究が着実に確立されつつあることの証左と言えよう。

—例会・関連シンポジウム等—

第 21 回例会・2012 年度総会

日時:2012 年 5 月 12 日

場所:小樽商科大学札幌サテライト教室

国家形成期の北欧王権:共同体の形態論とのかかわりで……………熊野聰(名古屋大学名誉教授)
ニヴフ語音声資料……………白石英才(札幌学院大学准教授)

主催:サハリン・樺太史研究会

共催:北海道大学 GCOE「境界研究の拠点形成」、科学研究費補助金(基盤 B)「19～20 世紀北東アジアのなか
のサハリン・樺太」、科学研究費補助金(基盤 B)「国境の植民地サハリン(樺太)島の近代史:戦争・国家・地
域」

第 22 回例会

日時:2012 年 8 月 18・19 日

場所:北海道大学人文社会科学総合教育研究棟(W棟)201 教室(18 日)

書評会:今西一編『北東アジアのコリアン・ディアスポラ:サハリン・樺太を中心に』

評者……………水野直樹(京都大学)

評者……………半谷史郎(愛知県立大学)

場所:北海道大学人文社会科学総合教育研究棟(W棟)309 室(19 日)

ロシアの大戦・内戦とウラジオストクの日本人居留民……………原暉之(北海道大学名誉教授)

朝鮮における帝国在郷軍人会……………庵途由香(立命館大学)

日本の植民地支配と都市形成:樺太を視野に入れながら……………橋谷弘(東京経済大学)

帝国日本と北方都市:北海道と樺太……………井潤裕(北海道大学)

第 24 回例会

日時:2013 年 1 月 26 日

場所:北海道大学人文社会科学総合教育研究棟(W棟)201 教室

北サハリンにおける生活イメージを求めて(～1930 年代)

:大鵬の異母定姉 ニーナ・サゾーノヴァの人生に見る歴史の軌跡……………小山内道子(来日ロシア人研究会)

樺太国境地帯の警備と出入管理:1939 年 国境取締法施行後を中心に……………加藤絢子(九州大学)

—研究成果刊行物—

(五十音順)

■朝日祥之 言語学

【著書】

朝日祥之『サハリンに残された日本語樺太方言』明治書院、2012 年 10 月 25 日。

■天野尚樹 ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

【定期刊行物】

天野尚樹「拝啓 李炳玉様」『樺連情報』746 号、2012 年 6 月 1 日。

■池田裕子 教育史

【定期刊行物】

池田裕子「樺太庁高等女学校の設置と私立大泊女学校の昇格」『樺連情報』754 号、2013 年 2 月 1 日。

■井澗裕 建築史

【定期刊行物】

井澗裕「「新天地」のシンボル 樺太庁博物館」『樺連情報』747 号、2012 年 7 月 1 日。

■小山内道子 日口交流史

【定期刊行物】

小山内道子「大鵬、マルキアン・ポリシコ、ニーナ・サゾーノヴァ そして函館ゆかりのシュヴェツ家について」『函館日口交流史協会会報』34 号、2013 年 3 月 31 日。

■梶浦篤 外交史

【定期刊行物】

梶浦篤「日ソ復交交渉に対する米国の戦略(I)」『政治経済史学』546 号、2012 年 4 月。

梶浦篤「日ソ復交交渉に対する米国の戦略(II)」『政治経済史学』547 号、2012 年 5 月。

梶浦篤「日ソ復交交渉に対する米国の戦略(III)」『政治経済史学』548 号、2012 年 6 月。

梶浦篤「日ソ復交交渉に対する米国の戦略(IV)」『政治経済史学』549 号、2012 年 7 月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■加藤絢子……………先住民史

【定期刊行物】

加藤絢子「樺太先住民の国籍：無国籍から日本臣民へ」『北海道・東北史研究』8号、2012年8月28日。

■神長英輔……………漁業史

【論文集】

Каминага Эйсуке. Сахалинская морская капуста и купец Я. Л. Семёнов: Из истории международной торговли морской капустой в северо-восточной Азии (конец XIX – середина XX в.) // Под сост. А. С. Ломов, Правительство Сахалинская области, Сахалинский государственный университет. Сахалинская область: история, современность, перспективы. Материалы международной научно-практической конференции (17-18 октября 2012 г., г. Южно-Сахалинск). Южно-Сахалинск, 2012.

神長英輔「樺太の「ロシア人」：異郷に生きた人々のつながりと助け合い」中嶋毅編著『新史料で読むロシア史』山川出版社、2013年3月。

■菊池俊彦……………考古学

【定期刊行物】

菊池俊彦「オホーツク海北岸地域とサハリンの交通路：櫛目文土器の出土と関連して」『北海道大学総合博物館研究報告』6号、2013年3月。

■倉田有佳……………ロシア極東史・来日亡命ロシア人問題

【定期刊行物】

倉田有佳「ガブリエル・クラメンコ：アストラハンからサハリンまで」『函館日口交流史協会会報』34号、2013年3月31日。

■玄武岩……………メディア学

【著書】

玄武岩『コリアン・ネットワーク：メディア・移動の歴史と空間』北海道大学出版会、2013年2月28日。

白石英才…………… 言語学

【定期刊行物】

東俊佑、白石英才「ニヴフの交易活動に係る聴き取りと物質文化資料の調査について：2010 年度調査報告」『北海道開拓記念館研究紀要』41 号、2013 年 3 月。

鈴木仁…………… 文化史

【論文集】

舟山廣治 野村崇 鈴木仁「樺太庁博物館をめぐる人々」舟山廣治編『樺太庁博物館の歴史』北海道北方博物館交流協会、2013 年 3 月 31 日。

【定期刊行物】

鈴木仁「『サガレン新聞』図書館関係記事目録：附・「樺太中外新聞」「樺太時事」」『北の文庫』58 号、2012 年 12 月。

竹野学…………… 経済史

【定期刊行物】

竹野学「保障占領下北樺太における日本人の活動(1920-1925)」『経済学研究』第 62 巻 3 号、2013 年 2 月。

田村将人…………… アイヌ史

【論文集】

田村将人「樺太アイヌの犬橇輸送に関する資料」『北方地域の人と環境の関係史 2011-12 年度調査報告』北海道開拓記念館、2013 年 3 月。

【定期刊行物】

田村将人「日露戦争とサハリン先住民・樺太アイヌ」『ロシア史研究』90 号、2012 年 6 月 12 日。

田村将人「千葉大学附属図書館徳永文庫所収『土人の話』に関するメモ（金子亨先生追悼号）」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』14 号、2012 年 9 月。

田村将人「環オホーツク海域の境界変動とそこで暮らしてきた人びと 先住民族、とくにアイヌの視座から」『現代思想』第 40 巻 17 号、2012 年 12 月。

田村将人「少し見えてきた樺太アイヌの近代史」『樺連情報』752 号、2012 年 12 月 1 日。

田村将人「V.N.ヴァシーリエフのアイヌ物質資料の収集過程に関する資料」『北海道開拓記念館紀要』41 号、2013 年 3 月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 出村文理 …………… 出版史

【論文集】

舟山廣治 宮元邵吉 野村崇 出村文理 関川修司「樺太庁博物館各論」舟山廣治編『樺太庁博物館の歴史』北海道北方博物館交流協会、2013 年 3 月 31 日。

■ 兎内勇津流 …………… ロシア中世史

【定期刊行物】

ピウスツキ プロニスワフ著、兎内勇津流訳「サハリン島の個々のアイヌ村についてのいくつかの資料」『環オホーツクの環境と歴史』2 号、2013 年 3 月 12 日。

■ 中山大将 …………… 農業社会史

【論文集】

中山大将「植民地樺太の農林資源開発と樺太の農学：樺太庁中央試験所の技術と思想」野田公夫編『日本帝国圏の農林資源開発：「資源化」と総力戦体制の東アジア』京都大学学術出版会、2013 年 3 月 15 日。

【定期刊行物】

中山大将「幻の樺太米」『樺連情報』751 号、2012 年 11 月 1 日。

中山大将「総力戦体制と樺太庁中央試験所：1937 年以降の樺太植民地社会における帝国の科学」『農業史研究』47 号、2013 年 3 月。

■ 原暉之 …………… ロシア極東近現代史

【定期刊行物】

原暉之「サハリン難民とロシア政府の救恤政策(<特集>2011 年度大会)」『ロシア史研究』90 号、2012 年 6 月 12 日。

原暉之「日露戦争期のサハリン難民とロシア政府の救恤政策」『ロシア史研究』91 号、2012 年 12 月 20 日。

■ 松村正直 …………… 文学史

【定期刊行物】

松村正直「北見志保子とオタスの杜」『短歌往来』2013 年 1,2,3 月号。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■三木理史 歴史地理学

【著書】

三木理史『移住型植民地樺太の形成』塙書房、2012 年 10 月 1 日。

【論文集】

三木理史「北樺太撤兵と朝鮮人」『樺連情報』747 号、2012 年 4 月 1 日。

参考資料……………非会員による研究成果刊行物

- 【著書】舟山廣治編『樺太庁博物館の歴史』北海道北方博物館交流協会、2013年3月31日。
- 【著書】北海道神社庁編『樺太の神社』神社新報社、2012年11月。
- 【定期刊行物】荒山正彦『旅費と費用概算』(1920年~1940年)にみるツーリズム空間：樺太・台湾・朝鮮・満州への旅程』『関西学院大学先端社会研究所紀要』8号、2012年10月。
- 【定期刊行物】池田貴夫「日本領期樺太の民俗・緒論」『日本民俗学』272号、2012年11月。
- 【定期刊行物】加藤克「標本ラベルからみた樺太動物調査鳥類標本について」『北大植物園研究紀要』12号、2012年12月。
- 【定期刊行物】川上淳「書評と紹介 原暉之編著『日露戦争とサハリン島』」『日本歴史』773号、2012年10月。
- 【定期刊行物】佐々木史郎「一九世紀の国境策定と先住民：アムール、樺太、千島における日口中のせめぎあいの中」『東アジア近代史』16号、2013年3月。
- 【定期刊行物】関根達人「場所図・古地図にみる1850年代の樺太(サハリン)島における先住民族と国家：目賀田帯刀筆「北海道歴検図」の検討を中心として」『北海道・東北史研究』8号、2012年8月28日。
- 【定期刊行物】関根達人「江戸時代に樺太で亡くなった人々：「白主村墓所并死亡人取調書上」の検討」『弘前大学国史研究』133号、2012年10月。
- 【定期刊行物】丹菊逸治「サハリン口承文学の地域差」『口承文藝研究』36号、2013年3月。
- 【定期刊行物】辻原万規彦、角哲、今村仁美「旧樺太製糖豊原工場に関連する建築物の現況について：戦前期日本における製糖業を支えるネットワークの形成過程と特質に関する研究その2(歴史・意匠)」『日本建築学会研究報告』52号、2013年3月3日。
- 【定期刊行物】樋口輝久「世界の土木遺産 サハリンにおける日本統治時代の土木遺産」『土木技術』第67巻4号、2012年4月。
- 【定期刊行物】前田孝和「新生命」「樺太新聞」に見る樺太の神社の終戦前後」『國學院雑誌』第113巻11号、2012年11月。
- 【定期刊行物】水落恒彦、今西一、手島繁一ほか「樺太・共産党・アイヌ：水落恒彦氏に聞く(1)」『小樽商科大学人文研究』124号、2012年12月。
- 【定期刊行物】三宅俊彦「サハリンの出土銭」『月刊考古学ジャーナル』626号、2012年4月。
- 【定期刊行物】三宅俊彦「サハリン出土の銭貨(改訂版)」『北海道大学総合博物館研究報告』6号、2013年3月。
- 【定期刊行物】八柏龍紀「きんようぶんか 本 遺棄された「支配の記憶」と「主語」の所在を問い直す 原暉之編著『日露戦争とサハリン島』」『金曜日』第20巻26号、2012年7月13日。
- 【定期刊行物】山下聖美「宮沢賢治と林芙美子における、樺太(サハリン)」『藝文攷』18号、2013年2月。
- 【定期刊行物】李泳采「政治的民族動員運動としての帰国運動：日本、中国、サハリン地域におけるコリアンの北朝鮮への帰国運動を中心に」『朝鮮史研究会論文集』50号、2012年10月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

一研究プロジェクト一

(代表者五十音順)

■朝日祥之 言語学

[継続]朝日祥之(国立国語研究所)「サハリンで形成された日本語樺太方言の多様性に関する社会言語学的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2011-2013 年度。

■今西一 日本近代史

[単年]今西一(小樽商科大学)「北東アジアのコリアン・ディアスポラ」北海道大学スラブ研究センター「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」、2012 年度。

■加藤絢子 先住民史

[新規]加藤絢子(九州大学)「日本統治下のサハリン先住少数民族:戦前・戦後における法的地位の変遷」科学研究費補助金・特別研究員奨励費、2012-2013 年度。

■中山大将 農業社会史

[新規]中山大将(北海道大学)「日本帝国崩壊後の樺太植民地社会の変容解体過程の研究」科学研究費補助金・特別研究員奨励費、2012-2014 年度。

■原暉之 ロシア極東近現代史

[継続]原暉之「国境の植民地サハリン(樺太)島の近代史:戦争・国家・地域」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2010-2013 年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

■ 参考資料 非会員による研究プロジェクト

[最終]東俊佑(北海道開拓記念館)「聴き取りと物質文化資料の調査による日本列島北方域の交易変容に関する包括的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2010-2012年度。

[継続]大友昌子(中京大学)「東アジアにおける福祉文化的基盤の比較研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2011-2013年度。

[継続]関根達人(弘前大学)「中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究」科学研究費補助金・若手研究(A)、2010-2013年度。

[継続]辻原万規彦(熊本県立大学)「戦前期日本における製糖業を支えるネットワークの形成過程と特質に関する研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2011-2013年度。

[継続]パイチャゼ スヴェトラナ(北海道大学)「北海道多文化共生におけるサハリンからの移住者の役割」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2011-2013年度。

[最終]宮下雅年(北海道大学)「樺太観光におけるまなざしの形成とマイノリティの表象」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2010-2012年度。

[継続]麦倉哲(岩手大学)「岩手県内の樺太引揚げ者のファミリーヒストリー 住宅困窮層の実態と支援の比較研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2011-2013年度。

[継続]柳原正治(九州大学)「近世及び近代の日本における「領域」・「国境」概念に関する統合的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2011-2014年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

サハリン・樺太史研究会会則

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
 - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
 - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
 - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
 - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
- 7.1. 役員選出までは 4 名からなる世話人が研究会の運営にあたる。世話人は役員を互選し、総会の承認を得る。
- 7.2. 新規役員選出は、改選前年度総会において組織される役員推薦委員会が役員候補を推薦し、改選年度総会で選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は 2 年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は 2009 年 4 月から発効する。本会則の改正は役員協議を経たのち総会の議決による。

サハリン・樺太史研究会役員

2011 年 5 月 28 日選出

会長:原暉之 (再任:二期)
副会長:今西一 (再任:二期)
事務局長:天野尚樹 (再任:二期)

=====

サハリン樺太史研究会 2012 年度活動報告書

発行日：2016 年 3 月 31 日

編集者：中山大將

発行者：サハリン樺太史研究会

[公式 HP] <http://sakhlinkarafutohistory.com/home.html>

お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====